

内浦公民館だより

令和 7 年 4 月 11 日発行

(2025) <vol.139>

Artfull うちうら

【発行】
内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008
E-mail
uchiura_c.c@town.takahama.lg.jp

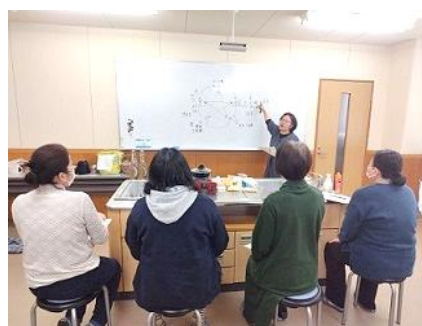
内浦公民館講座

ヨガ教室(3 回シリーズ)3/2(日)・3/9(日)・3/22(土)



内浦公民館 1 階会議室で【ヨガ教室】を開催しました。冬の寒さや寒暖差で体調を崩しておられる方も多いこの時期に、ゆっくりと体をほぐしていきました。講師はアプリットサンマイル(Rina)さん。呼吸や体の動きを分かり易く教えていただきました。令和 7 年度もヨガ教室を開催します。皆様のご参加お待ちしております。

からだを整える季節の雑穀料理(春・もちあわ)



【もちあわ】と【かぼちゃ】
と【レンズ豆】のお汁粉

令和 7 年 3 月 23 日(日)

内浦公民館 2 階 調理実習室で【からだを整える季節の雑穀料理】を開催しました。講師はマクロビオティック食事アドバイザーの山崎慶子さん。「春」のころとからだのバランスを整えてくれる【もちあわ】の料理を教えてくださいました。簡単に調理が出来るのに、おしゃれでとても美味しいレシピです。陰陽の食べ物とからだのお話を聞いて、食事の大切さを再確認されていました。

- 開館時間 午前8時30分～午後10時
- 利用時間 午前9時～午後9時30分 夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。
<5月の休館日> 5日(月)・12日(月)・18日(日)・19日(月)・26日(月)

《地域ニュース》

第3回 青葉山トレイル マラソン



令和7年3月16日(日)

今年も多くの参加者が内浦公民館発着約20kmのコースを走りました。雨の中スタートした皆さんに、温かい豚汁とおにぎりの炊き出しを用意された日引ふれあい広場農家食堂のスタッフ。「お帰りなさい!」の声と共に提供されました(左の写真)

元気あっぷ生き活き倶楽部 に参加してみませんか?



内浦公民館多目的ホールで毎月第1・第3火曜日 13:30~15:00に開催しています。専門の先生に指導していただき無理なく楽しみながら体を動かします。毎回和やかな雰囲気です。65歳以上の方なら、どなたでも参加出来ます。ご参加お待ちしております。
■次の開催日は4月15日(火)です!



<ご挨拶の様子です>

令和7年度から、元気あっぷ生き活き倶楽部は社会福祉協議会との共催事業になりました。



館長の《こーひーぶれいく》No.120



今回は 伊予原 新 著「藍を継ぐ海」です。

令和7年直木賞受賞作。科学をモチーフとした自然と人の心象の物語5編です。

星隕つ駅通 北海道遠軽町。町のどこかに隕石が落ちたといううわさを聞きつけ、隕石の搜索隊が町にやってくる。搜索隊がとう留する宿泊施設で働く涼子は隕石を見つけるが、父が愛してやまない地元の地名を残すために、発見場所を偽って搜索隊に報告する。

涼子の父は代々この地区の野知内（やちない）郵便局の局長として定年まであと少し。定年とともに郵便局も廃止されることとなっている。ここには「野知内駅通（えきてい）跡」の木標が立っており、駅通とは、幕末から昭和初期までの北海道で、旅人や入植者の宿泊、運送、郵便などを担った施設のことだ。明治の初頭、新郵便制度が始まり、郵便局が新設されていった。駅通の一部が局舎に利用されることが多かったため、駅通が昔の郵便局と勘違いする人が多いという。父は祖父の代から局長を務める野知内郵便局の地名を留めるため、石碑を建てることを悲願としている。

隕石の名は落ちた場所の地名が付くと知った涼子は、野知内の名を残せると考え、郵便局の近くで見つけたと報告したのだった。涼子はこの行動を後悔し、真実を話すことになるが、その思いは後に形となって報われる。町の歴史と宇宙との融合にロマンを感じさせられる。

藍を継ぐ海 徳島県阿須町の姫ケ浦。ウミガメの卵5個を盗んだ中学生の沙月は、1人のカナダ人のティムに見つかる。ここのアカウミガメの産卵巣は町の条例で産卵が保護されており、佐和というボランティアの女性が監視員をしている。沙月は祖父と二人暮らしで、姉は都会に出ていったまま行方がわからない。卵は自宅の納屋で孵化させるつもりだった。佐和はこのことを知りつつ見逃してくれている。

アカウミガメの子ガメは生まれた後すぐに外洋に出ていく。遥か太平洋の向こう側、カリフォルニア沖の栄養豊富な食べ物の海域まで行くのだ。まずは黒潮に乗り日本列島の南岸を進み、房総半島沖で東向きの流れにのると、そのまま北太平洋海流に運ばれ、太平洋を横断する。流れ藻に隠れ、流木にしがみつकिながら、3.4年かけて長い旅をする。運よく辿り着いた子ガメは、エビなどを食べながら10年余りを過ごし、甲長60センチほどの若カメに成長すると、いよいよ帰郷だ。今度は海流をさかのぼり、太平洋を渡り、日本沿岸で10年以上をかけて成体になる。そして近海で交尾し、メスは自分がうまれた浜に上がって産卵する。いわゆる「母浜回帰」だ。

ティムはカナダの太平洋岸でタグの付いたウミガメを救い、ウミガメのことを知ろうと姫ケ浦に来ていたのだ。そのウミガメは4年前、姫ケ浦に取り残されていたのを沙月が保護し、佐和が育て、タグをここで付けたものだった。両親も姉もいない沙月は、ひとり取り残された子ガメを自分に重ね合わせたのだろう。

狼犬ダイアリー 東京での仕事がうまくいかず奈良県東吉野村に移住した、人づきあいが苦手なまひろ。今は絶滅したといわれるニホンオオカミの目撃情報が絶えない山奥で、まひろはオオカミらしき動物を目撃する。もともとオオカミになんの興味もなかったが、イヌという動物がオオカミから分かれてどう誕生したのかを知り、どんな人の中にも、“オオカミ”と“イヌ”がいるんじゃないかと気づく。それを飼いならしていくということを、みんなはやっているんじゃないか。自分はそれをうまく飼いならせていないことに気づく。まひろは社会の中であまりうまくやっていけないのだ。オオカミの存在を知るにつれて、時には自由に、社会から離れてふるまってもいいんだ、人間という動物の二面性に気づいて、臨機応変にやっていけばいいと気づく。



一貫して天文、生物、地学など科学と関連付けた小説を書き続けることに著者は「研究者とか科学者たちは、科学を信じて、科学が広がっていく世界そのものを信じて、揺るぎないものだと思ってやっているわけです。このご時世、フェイクとかがあふれて何を信じていいかわからない時代ですが、そんな中でも信じられるものがまだあるよと安心してもらえるんじゃないかなと感じています。科学を小説で描く意味も、そこににもまだあるだろうと思っています。」と言っています。

内浦公民館講座

「戦後 80 年平和を考える ～内浦地区に隣接する海軍第三火薬廠跡～」



令和 7 年 3 月 23 日(日)

内浦公民館 1 階会議室で「戦後 80 年平和を考える～内浦地区に隣接する海軍第三火薬廠跡～」講座を開催しました。講師は、舞鶴市の朝来地方史研究会 会長 関本長三郎さん。海軍第三火薬廠は、太平洋戦争で使用された特攻兵器「回天(人間魚雷)」の火薬を製造していた施設で、日本では神奈川、呉、舞鶴の三ヶ所にありました。講座では、火薬廠での過酷な作業の内容や各工場の特徴などの説明を聞いた後貴重な写真を見せていただきました。戦争を繰り返さないためにも、当時のお話を聞き語り継ぐ事の大切さを教えて頂きました。

これからの内浦公民館講座のお知らせ

ランニング教室 (4 回シリーズ)



お申込み・お問合せは
内浦公民館
0770-76-2007
までお願いします!

子供から大人まで一緒に楽しく、参加していただけます。
講師は、大西雄三さんです。ランニングについて教わりましょう。1回目は、4月 26 日(土) 10:00～12:00 です。
内浦公民館 2 階多目的ホールで行います。
運動シューズ、動きやすい服装、
水分補給用飲料も忘れずにお持ちください。
お申込みお待ちしております!



からだを整える季節の雑穀料理 (夏・とうもろこし)

開催日時…令和 7 年 5 月 11 日(日) 13:30～15:00

